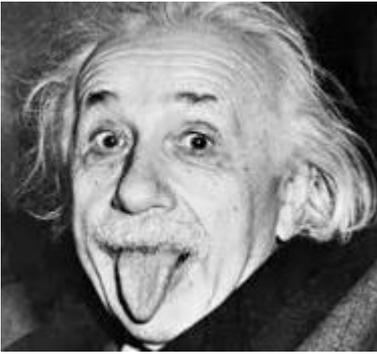


常識とは・・・ (1月27日)

「常識とは 18 歳までに身につけた偏見のコレクションではない。」



これは、相対性理論で有名な物理学者アルベルト・アインシュタインが残した言葉です。

アインシュタインの言葉にならえば、そもそも常識とは 18 歳までに身につけた偏見の集まり、つまりその“偏見”とは生きている時

代と場所によって大きく違って来るわけで、絶対的なものとは言えないということになります。

アインシュタインの 18 歳までというのは、ちょうど高校卒業までであり、日本ではそこで成人を迎えます。つまり、学校で常識を学んでいくのだと言っているように思えます。

学校では、日々、子どもたちがそれぞれの物差しを基準にした行動をとり合う中で、ぶつかりあったり、磨き合ったりしながらお互いに輝き合うためにはどんなことが大切なのかを学んでいます。この経験がいつしか、共通の物差しになっていき「常識」を作っていくのです。

子どもは間違ふものであり、間違いを通して成長していきます。そしてそれが学校という場の大きな存在意義のひとつです。

アインシュタインの言葉には、こんなものもあります。

「重要なのは、疑問を持ち続けること。知的好奇心は、それ自体に存在意義があるものだ。」

「失敗したことの無い人間というのは、挑戦をしたことの無い人間である。」

子どもたちよ、安心していっぱい失敗をしてくださいね。そして、ぶつかり合って磨き合ってくださいませ！